

わかみがはらの埋文

平成24年度

—各務原縄文五千年の里— 炉畑遺跡C地区発掘調査



発掘調査期間:平成24年9月24日(月)~12月28日(金)

炉畑遺跡C地区全景(南から)

炉畑遺跡C地区発掘調査について

各務原市は来年度、市制50周年を迎えます。その記念事業「各務原 縄文 五千年の里」として、防衛省より土地を借り受け、昨年9月下旬から12月下旬にかけて炉畑遺跡C地区(鶉沼三ツ池町6丁目地内)の発掘調査を行いました。

遺跡からは約5千年前の縄文時代中期の竪穴住居址1基、同時期の祭祀に関わると考えられる掘立柱建物址1基、そして今から3千年前の縄文時代晩期の土器棺墓多数のほか、第2次世界大戦時のものと考えられる旧各務原東飛行場関連施設址など、特色ある遺構や遺物を検出しました。

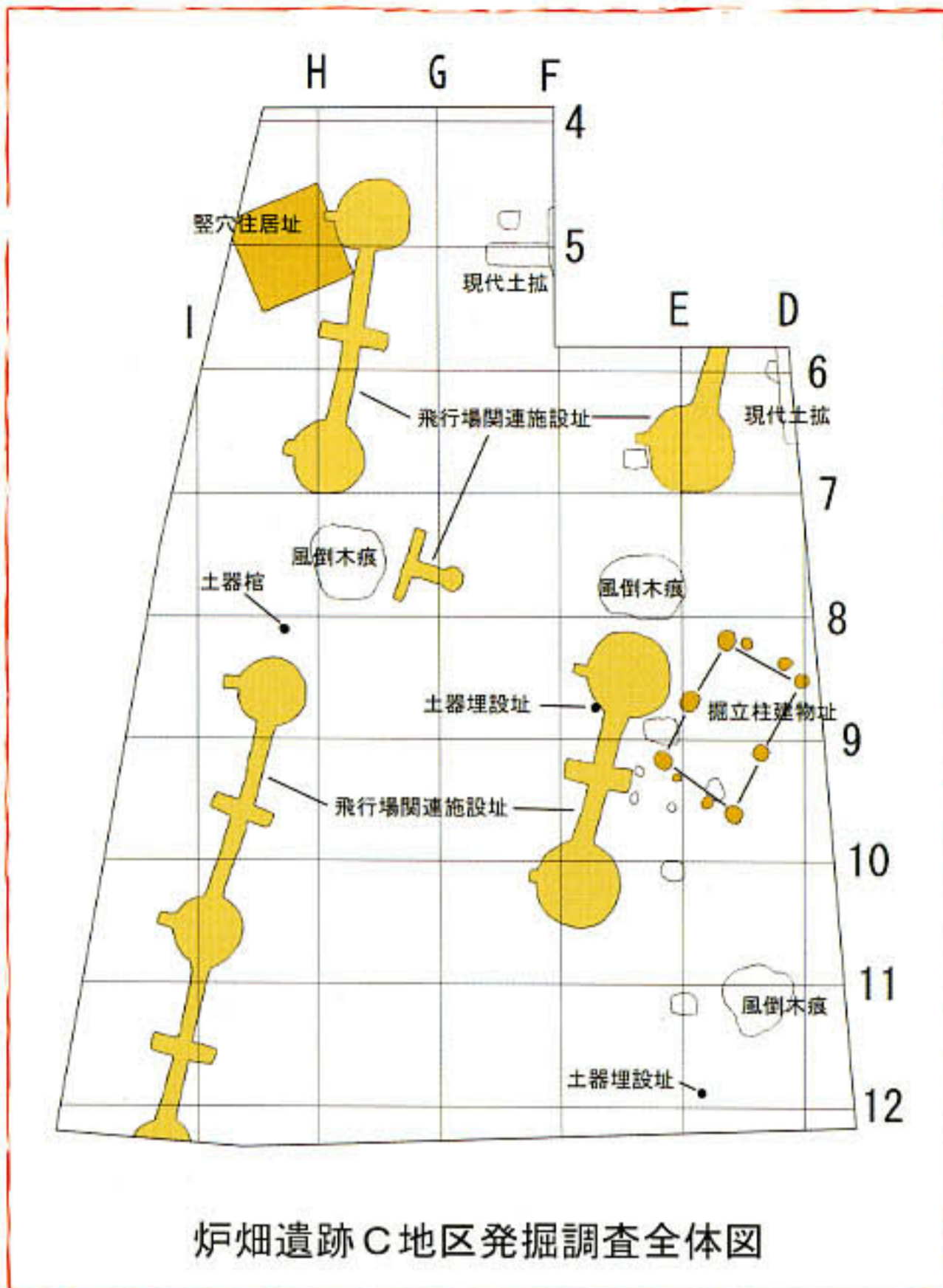
「各務原 縄文 五千年の里」とは

各務原市では、古くから人々の生活を営んだ炉畑遺跡の姿を発掘調査によって明らかにするとともに、各務原台地に広く育まれた歴史文化を「各務原 縄文 五千年の里」として、街づくりに活かしていきます。

炉畑遺跡とは

炉畑遺跡は、東海地域の縄文時代を代表する大規模集落遺跡です。今から約5千年前の縄文時代中期に集落が営まれ、縄文時代晩期(約3千年前)の土器棺墓とよばれる遺体を土器に収めた墓も発見されています。

炉畑遺跡は昭和43年から昭和46年にかけてのA地区の発掘調査で縄文時代中期の竪穴住居址10基が調査され、平成14年の発掘調査では掘立柱建物址1基と炉跡や焼石土坑が調査されています。出土遺物には土器や石器のほか、土偶や玉類、炭化した植物種子なども確認されています。また当時炉畑遺跡から出土した口縁部が大きく膨らむ形の土器は、「咲畑式土器」と呼ばれていましたが、近年の調査で木曾川中流域の各務原市から坂祝町、美濃加茂市一帯に栄えた独特の土器文化であることが判明し「炉畑式土器」の名称が与えられています。



炉畑遺跡C地区発掘調査全体図

炉畑遺跡周辺の環境は、今から1万5千年以上前の旧石器時代から縄文時代草創期までの間は、現在よりも気候が寒冷でしたが、約6千年前の縄文時代前期以降は、平均気温で1~2度高くなり、濃尾平野では愛知県一宮市あたりまで海が進入していたと考えられています。とすれば、当時の木曾川河口は、ほぼ現在の各務原市稲羽地区から川島地区あたりに広がっており、炉畑遺跡の立地する各務原台地は海岸段丘的な景観を呈していたのではないかと考えられます。つまり炉畑遺跡は現在の内陸部にある縄文遺跡という印象とは異なり、古伊勢湾に臨む木曾川河口の高台に位置する拠点集落だったのではないのでしょうか。

発掘調査成果の概要

ほったてばしらたてものあと 掘立柱建物址

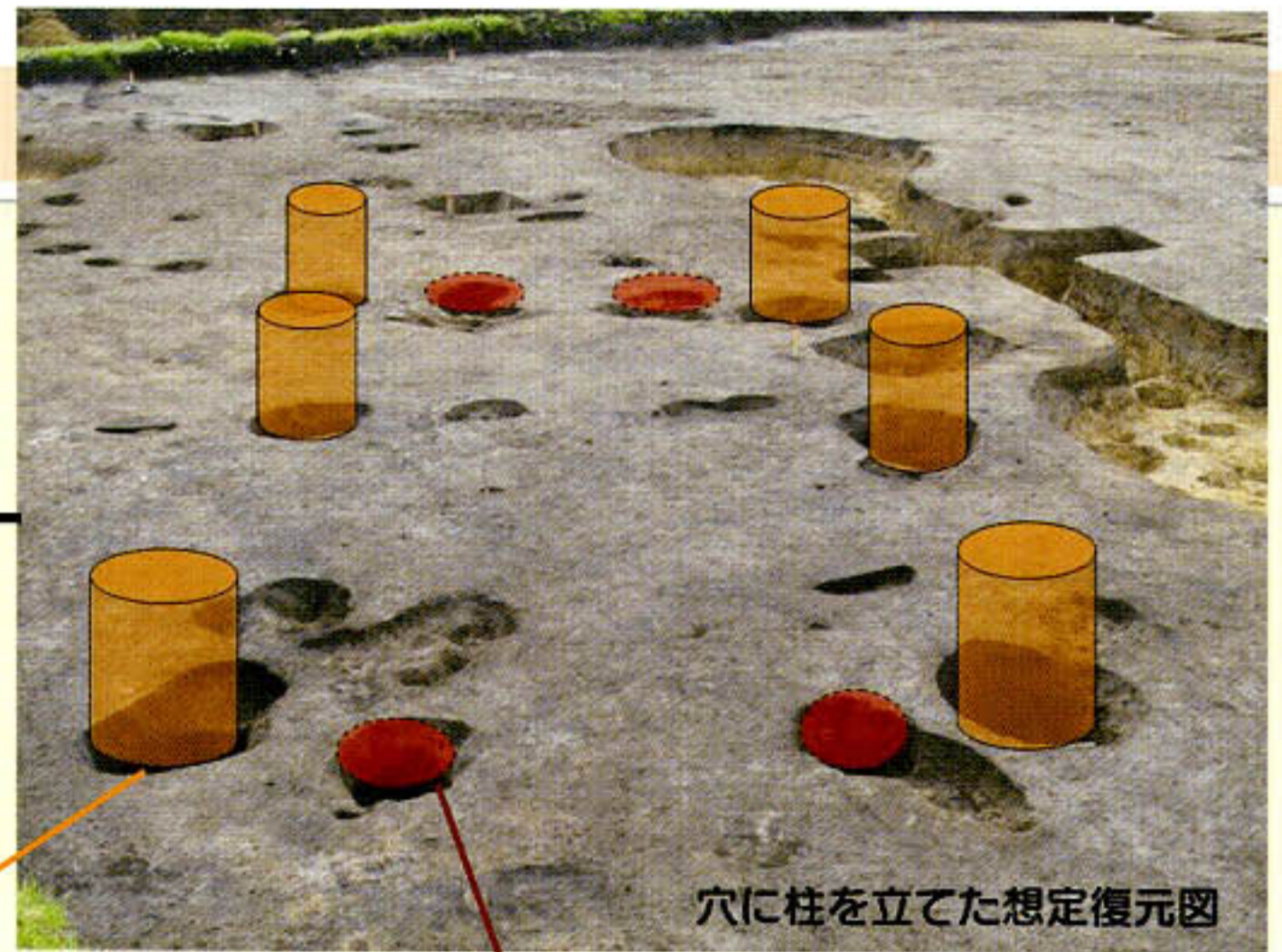


掘立柱建物址

梁行1間、桁行2間 (3.5m×6.0m)
(白い点線で結んだ方形の範囲)



掘立柱建物址を構成する主となる柱の穴からは、それほど多くの土器片は出土しなかった。



穴に柱を立てた想定復元図

推定復元図赤丸の部分は、やや小型の柱穴状ピット(穴)で、内部には土器片や炭化物、焼土が多く含まれていた。何らかの祭祀に関わる投棄行為と考えられる。

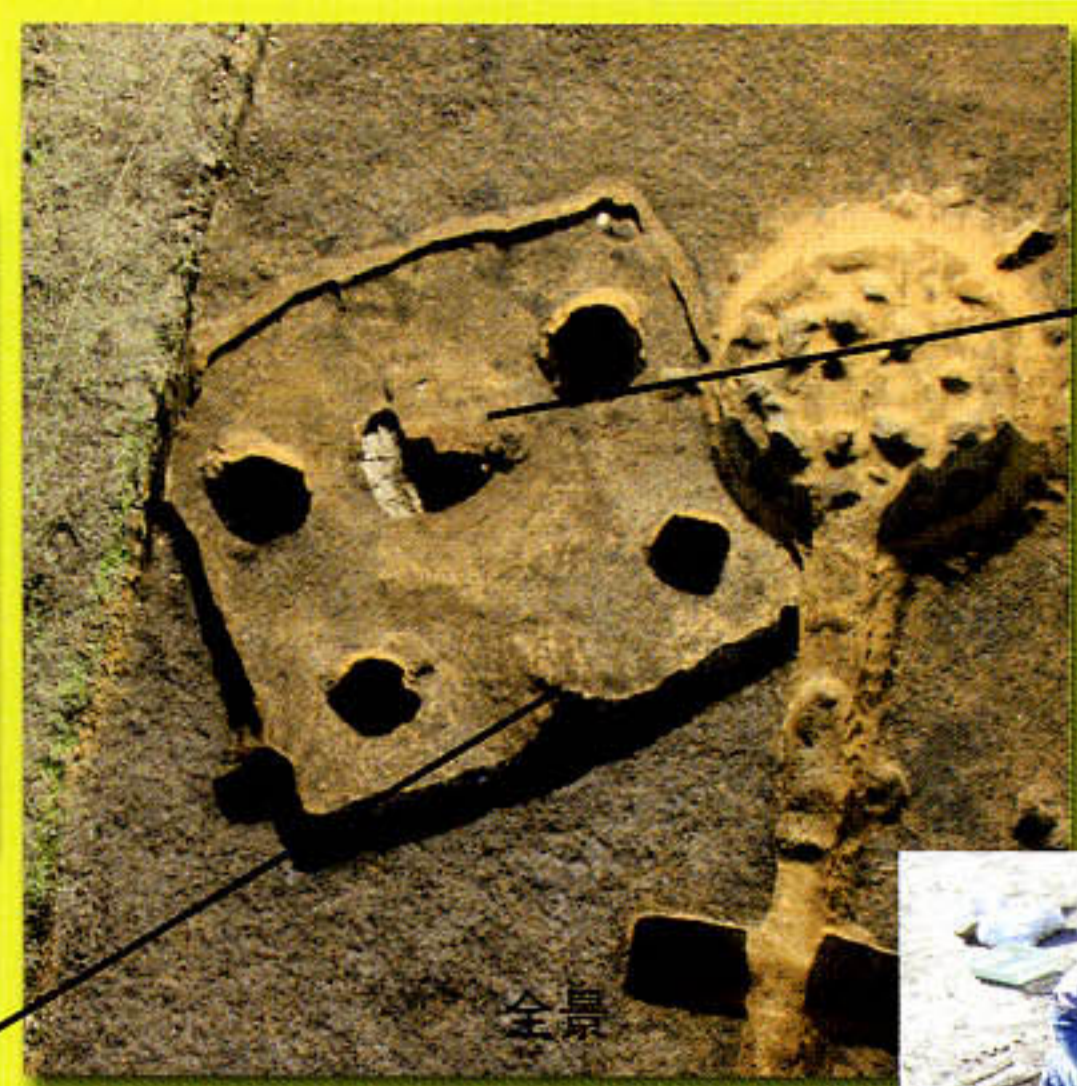


赤丸の柱穴状ピット土器片出土状況

たてあなじゅうきよあと
竪穴住居址



▼埋甕出土状況 ▲近景（東から）



全景



▲炉石と炉跡

▼遺物出土状況



じゅうきよあと
住居址の規模は約4m四方。
住居址内から、炉石と炉跡を
検出。また、住居の入口付近
からは、埋甕が出土した。

どきかんぼ
土器棺墓



土器棺出土状況。戦後の開墾
や耕作などによって破壊され
て、底部のみが残っている。

どきまいせつあと
土器埋設址



小規模なピット（穴）に、土
器片がほぼ立った状態で出土
した。（D-11区）

ひこうじょうかんれんしせつあと
飛行場関連施設址



全景

現地説明会

12月22日（土）



約100名の方々にお越しいただきました。あいにくの雨で足元の悪い中、
学芸員の発掘調査成果の解説に、皆さん熱心に耳を傾けていました。



近景（北から）

旧各務原東飛行場関連施設址。
第二次世界大戦時のものと考えられる。

炉畑遺跡C地区発掘調査 市民発掘体験

今回の発掘調査に伴い、主に市民の方を対象に発掘体験の参加者を募集しました。約200名の方々にお越しいただき、発掘調査期間中の毎週土曜日（または日曜日）の、午前は炉畑遺跡の発掘体験、午後は「勾玉づくり」や「石器づくり」など、古代の暮らしに触れる体験講座を実施しました。

また、市内小中学校の児童・生徒の皆さんにも多数参加いただき、市の縄文時代を代表する炉畑遺跡の発掘体験を通じて、郷土の歴史を学習しました。



市民発掘体験実施日と参加者数

- ・9月29日(土) 29名
- ・10月7日(日) 36名
- ・10月14日(日) 12名
- ・10月23日(火) 23名
(動く市民教室見学)
- ・11月3日(土) 21名
- ・11月10日(土) 19名
- ・11月17日(土) 22名
- ・11月24日(土) 10名
- ・12月1日(土) 9名
- ・12月15日(土) 22名

9月29日～12月15日 全10回
計203名参加

※11月17日、12月15日は古代体験講座のみ実施

発掘体験感想

- ・土器を見つけることができ良かったです。学校で縄文時代のことを勉強した後だったので、すごく楽しかったです。(小学生・女子)
- ・貴重な体験をさせていただいて、ありがとうございます。掘るといってより優しくなでるような作業の繰り返しをする地道な作業なのだなあと感じました。いろいろなところで土器が出て、おどろきました。(一般・女性)
- ・今日は土器らしいものは発掘できませんでしたが、発掘に関する情報や経験が得られたのでためになりました。(一般・女性)

古代体験講座感想

- ・特にマイグりが疲れたけど、面白かった。昔の人はこんなに苦労して火をつけて、すごいと思いました。(火おこし/小学生・男子)
- ・すごくいいねに、子どもにもわかりやすく教えていただき、興味深く楽しくやれました。久しぶりに歴史的なことに興味を持ちました。もっと自在に石器を作れるように、また挑戦したいと思います。(石器づくり/一般・女性)
- ・以前から参加したいと思いながら出来ず、今日やっと機会が得られました。イメージ通りに作れて満足です。(勾玉づくり/一般・男性)



発掘体験感想

- ・はじめは土器が出てこなくて面白くないと思ったけど、だんだん楽しくなってきました。また機会があったらやってみたいです。
- ・地味な作業だったけど、土器を見つけたときはうれしかったです。
- ・足や腰が痛くなり、発掘の仕事は大変だなあと感じました。

市内小中学校発掘体験実施日と参加者数

- ・10月10日(水) 川島小学校 5年生 128名
- ・10月24日(水) 稲羽中学校 1年生 40名
- ・10月30日(火) 各務小学校 6年生 50名
- ・11月9日(金) 鶴沼第二小学校 6年生 121名
- ・11月27日(火) 緑苑小学校 6年生 62名

5校 計401名参加

勾玉づくり感想

- ・やすりで削っていくのが難しかったです。先生にいろいろ教えてもらい、根気よくやるということ学びました。
- ・はじめてのことで難しいかなと思ったけど、それほどでもなく、楽しかったので良かったです。きれいな勾玉ができて、とてもいい思い出になりました。



埋文体験講座

勾玉づくり 8月1日(水) / 8月3日(金)

受講者 12名

「2回目の勾玉づくりだったけど、前より楽しかった。来年もやりたいです。」



「すごく時間がかかって大変だったけど、つるつるできれいな勾玉ができたからうれしかったです。」

滑石・高麗石から、勾玉をつくりました。



石器づくり

受講者 6名

8月11日(土)

「古代人の技術や発想のすばらしさを感じました。何万年の苦勞の積み重ねで今があることを感謝します。」



黒曜石・下呂石・十勝石・チャートから材料を選び、矢じりをつくりました。

火おこし 受講者 9名

8月2・9・16・23・30日 毎週木曜日



「何種類かの火を起こす方法があると知りました。キリモミ式で火を起こすことがとても難しいことがよく分かりました。麻紐にあつという間に火がつく瞬間は感激です。」

キリモミ式、ヒモギリ式、マイギリ式、火打ち石の4種類を用意。火おこしの歴史を学んでいただきました。

縄文土器づくり 受講者 4名

土器製作9月6日(木) / 野焼き12月6日(木)

「野焼初体験、非常に楽しく参加させていただきました。」



土器の製作後、充分乾燥させてから野焼きをして、作品を完成させました。

東濃の遺跡と博物館・資料館見学会

9月20日(木) 受講者 28名



「美濃、尾張を中心とした陶磁器の発展、変遷の歴史がよく分かり、とても参考になりました。」

川合考古資料館、次郎兵衛塚古墳、多治見市埋蔵文化財センター、美濃焼ミュージアムをバスで巡り、東濃の歴史について学習しました。

原始・古代のグルメ教室 受講者 2名

12月20日(木)



「楽しい体験でした。叩石など古代の道具も使い、気分を味わいました。木の実も思った以上に美味しく良かったです。」

トチやクルミやシイなど、大昔に食べられていた木の実を使って、トチ餅やおやきなどを作りました。

歴史講座「かかみ野古代史紀行」

今年度のかかみ野古代史紀行は、下記の日程で開講しました。

開 講 日	講 師	演 題
10月6日(土) (出席者50名)	関ヶ原町役場総務課 主任 富田 真一郎 氏	-このまち まるごと 古戦場- 関ヶ原古戦場の魅力とその歴史
10月13日(土) (出席者48名)	恵那市教育委員会文化振興課 課長補佐 三宅 唯美 氏	岩村城下町・明知陣屋町と中馬の道
10月27日(土) (出席者51名)	(財)土岐市埋蔵文化財センター 主査 中島 茂 氏	国指定史跡 元屋敷窯と土岐市の史跡について

「かかみ野古代史紀行」感想

(第1回)

「関ヶ原町へは何度も出かけ、ボランティアガイドさんの熱心な説明を受けております。今日の講義は復習となりました。とても分かりやすい内容で、大変勉強になりました。」(60代・男性)



関ヶ原古戦場決戦地碑

(第2回)

「中馬の意味がよく分かりました。山に囲まれた恵那の地で、岩村城下町と明知陣屋町を中心に、歴史を大切にしていると感じました。いつか訪ねてみたいと思います。」(60代・女性)



岩村城跡から見た城下町



元屋敷窯

(第3回)

「大窯とは何か、といった基本的な解説を交えての講義は大変分かりやすかったです。土岐市の歴史について詳しく説明され、よく理解できました。」(40代・女性)



※平成25年度の「かかみ野古代史紀行」は、10月頃に開講を予定しています。

埋蔵文化財発掘調査事業

文化庁保護事業埋蔵文化財保存活用整理事業として、昭和43年から昭和46年にかけて発掘調査された、炉畑遺跡の出土品再整理作業を行いました。

再整理の成果を市民のみなさんに広く知っていただくため、各務原 縄文 五千年の里特別展「炉畑遺跡再発見!」を平成25年3月5日(火)から4月7日(日)まで開催しました。



埋文センター団体見学

(抄録)

- ・5月30日(水) 岐阜県立岐阜聾学校(10名)
- ・6月8日(金) ヒストリー各務野会(26名)
- ・9月6日(木) 中部学院大学(50名)
- ・10月19日(金) 北名古屋歴史民俗資料館(28名)
- ・10月23日(火) 動く市民教室(25名)
- ・10月24日(水) 稲羽中学校(42名)
- ・12月5日(水) 木曾川文化史料館(30名)



※埋文センターの見学等をご希望の方は、下記までご連絡ください。休館日でも見学等に応じます。

「かかみがはらの埋文」第21号 平成25年3月発行

各務原市埋蔵文化財調査センター

〒504-0914

岐阜県各務原市三井東町4丁目32番地

TEL 058(383)1123 FAX 058(383)8655

(休館日：土日・祝日)

<http://www.city.kakamigahara.lg.jp/maibun>